# 南海日日新聞掲載記事

令和３年 12 月 19 日（日）



ジュニア 2021年度 あまみ子ども読書・新聞応援プロジェクト⑨

## らいねんは ぜったい

東城小1年・師玉　心音

わたしは、ここしの6月から、って、わくわくしました。おとうさんがつくった、りく上ゆうでならったとおり、まえをやきゅうぎなどいろいろなスポーツをするクラブに入っています。

11月3日にかこしましであったKKBりく上フェスタにさんかしました。あまみでの大かいには出たことはありましたが、大きな大かいははじめてです。

1ねん女子50メートルそうには、60人が出じょうしました。わたしは、さいごの8こみめでした。わたしは、スタートまえはきんちょうしたけど、「がんばって一ばんになるぞ」とおもいました。

いままでで一ばんいいタイムでした。うれしかったけど0・2びょうたりなくて、けっしょうにはでどきませんでした。とてもくやしくて、つぎはぜったいにまけたくないとおもいました。

いつもいっしょにれんしゅうしているなかまやかぞくと、これからもたくさんがんばって、らいねんは一ばんでゴールしたいです。

## 身近にあるステージ

東城中3年・永井　俊丞

僕は普段、あまり新聞を読まない。しかし先日新聞を読んで、その記事の多さに驚いた。政治やスポーツといったジャンルの中に、テレビではあまり見ないニュースがあったのだ。例えば、子どもが釣った魚と一緒に撮った写真や、子どもの書いた詩、絵などの作品紹介コーナーだ。「新聞」と聞くと、現代社会の事件や出来事、プロスポーツやオリンピックといった大規模な大会を想像していた自分にとって、こうした身近な記事は意外だった。国民の多くが知っている有名人だけでなく、僕たちでも記事に載るチャンスがあると、これはちょっとした「事件」だった。

多くの家庭に毎日のように届く新聞。数え切れないほどの人が手にする新聞に、地域の子どもの写真や絵が載っている。新聞は子どもから大人まで多くの人に活躍の場を与えることをあらためて気づかされた。

# 奄美新聞掲載記事

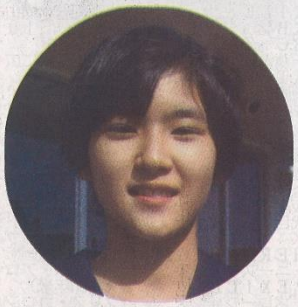
令和３年 12 月 23 日（木）

## なりたい自分になるために

東城小4年　西　蒼祐

ぼくは、体を動かすことが大好きです。その中でも、特に好きなのがドッジボールです。理由は、ボールをなげたりキャッチしたりすることがとてもかっこよく感じるからです。ぼくは、小学校と中学校が一緒になっている学校に通っています。だから、昼休みに中学生とたくさん遊ぶことができます。そんなときに、お兄さんたちがボールを速くなげている様子や年下に優しく教える姿を見て、とてもかっこいいなあと思いました。それから、ぼくも胸が赤くなるほどキャッチする練習をしたり速くなげる方法を考えたりするようになりました。だから今では、お兄さん達のなげる速いボールもキャッチできるようになりました。そして、ぼくに優しくしてくれたお兄さん達のように、年下の友達にもボールを優しくなげたり、キャッチしたボールをわたしてあげたりしています。いつかぼくも年下があこがれるお兄さんになれたらいいなあ。

## 新聞は友達



東城中1年　仁田尾　蘭

長い文章を読むことはとても苦手だ。さらに小さい字で書かれた文章は、読みづらくて途中であきてしまう。そんな私はあまり新聞を読もうとは思わなかった。

ある日、祖母の家に行くとテーブルの上に新聞が置いてあった。いつもなら何とも思わないのに、手に取って眺めてみた。意外と短い文で書かれていた。教科書ほどではないが、字もそんなに小さくない。読んでみると、いろんな情報がたくさん載っていた。

一つの記事のすぐそばに、記事の説明や、関係のあることがらについて説明してある記事もあった。なんだか親切な友達が、わかりやすく説明をしてくれているような気がしてきた。

それから今も私は新聞を読んでいる。難しい漢字や言葉はとてもよい練習になる。これからも情報をたくさんくれて、勉強にもなる新聞を読み続けていきたい。